

中津川市リニアのまちづくりビジョン策定委員会幹事会 分野ごとの方向性(部会別討議)

1. 全体

ビジョンの考え方

発言内容	
産業部会	まちづくり部会
<ul style="list-style-type: none"> ・中津川市内の各地域がそれぞれ考えたものの集大成を中津川市全体で活かしていくスタンスが必要。 ・各分野において飛騨や木曾などと連携していくことが重要。 ・リニア効果は降りてもらう人のことを考えることが重要。 ・15年先を見据えた議論が必要。 ・全体の項目について夢のある文言にして行った方がよい。 ・中津川市全体と地域固有の特性を踏まえた情報を上手にくみ上げていくことが重要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域毎のゾーニングをし、中津川市全体で捉えていくことが重要。 ・50年、100年を見据えて議論すべき。 ・こうした委員会を長く続けていくことが重要で、議論してきたことを残していくことも重要。 ・どの年齢層でもわかりやすいビジョンが必要。 ・環境基本条例など市の条例の前文に中津川市のイメージやコンセプトが含まれているので参考にするとうよい。 ・市民アンケートの結果からキーワードを拾い上げることがよい。 ・豊かな自然、街道文化、伝統文化、伝統産業、人柄のよさ、日本の真ん中に加え、知的で若々しいイメージがあるとよい。
部会別討議にみる方向性	
<ul style="list-style-type: none"> ■地域毎にまちづくりを考え、市全体の方向性を示す。 <ul style="list-style-type: none"> ・地域固有の特性を把握して、市全体に展開 ■各分野において周辺地域との連携・協力を検討する。 <ul style="list-style-type: none"> ・飛騨や木曾などの連携 ■リニア開業までではなく、その後も見据えたビジョンにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・15年先、50年、100年を見据えた議論 ■他地域に伝えたい中津川のよいイメージを示す。 <ul style="list-style-type: none"> ・市各種条例やアンケート結果を参考にした検討 ・豊かな自然、街道文化、伝統文化、伝統産業、人柄のよさ、日本の真ん中、知的で若々しい街など 	

2. 産業に関する分野

2-1 農業

発言内容	
産業部会	まちづくり部会
<ul style="list-style-type: none"> ・ 6次産業として加工できるものを作るとよい。 ・ 大きな加工場が不要なスイーツの生産・加工を整備して、リニア利用者に売り出す。 ・ 耕作放棄地の問題については、リニアとは別に議論を。 ・ 刈谷のハイウェイオアシスのようにリニア駅と高速道路をつないで売場を確保することも重要。 ・ 規模が小さいのでブランド力が小さくなってしまう。また、何をブランド化するのかイメージできない。 ・ 週末の農作業といった観光につながる農業の推進の方向性もあってよい。 ・ 農業の現状や課題を十分に把握すべきだ。 ・ 農業の集約化により効率化を図っていくことも重要だ。 ・ 就農を促進する場合は、どのくらいのニーズがあるのかマーケティングする必要がある。 ・ 産直市場の整備よりも、耕作放棄地の集約・交換による住宅地の造成や地目の再編成の方が重要と考える。 	
部会別討議にみる方向性	
<p>■ 農産品の生産から加工・販売までの一貫体制による農業活性化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6次産業化 ・ リニア駅と高速道路を組み合わせるなど中津川で生産したものの売場を確保 ・ ブランド化のイメージについての検討 ・ スイーツの生産・加工 <p>■ 週末農業といった観光と組み合わせた取り組みを行う。</p> <p>■ 大都市住民のニーズを踏まえて就農を促進する。</p> <p>■ 集約化等による効率化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 耕作放棄地の集約・交換 ・ 地目の再編 	

2-2 林業

発言内容	
産業部会	まちづくり部会
<ul style="list-style-type: none"> ・森林の整備は生活環境や産業立地などの環境向上に波及するので重要。一過性でなく持続的に行うべき。 ・災害に強い森林整備が必要。 ・森林整備による景観についても考えていく必要がある。 ・森林の持つ副次的な効果に着目した森林の体験ツアーの促進が考えられる。 ・森林の6次産業化も検討に。 ・豪快な伐採作業見学などの行政のバックアップしたガイドツアー形式の体験ツアーが考えられる。 ・神宮備林を観光ルートとして活用・整備が考えられる。 ・森林ボランティアについてはニーズがあってもリニアと絡めるのは難しいかもしれない。怪我の可能性、国有林との調整など、検討が必要である。 	
部会別討議にみる方向性	
<ul style="list-style-type: none"> ■中津川市の森林をひきつづき守る。 ■木材の生産から加工・販売までの一貫体制による林業活性化を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・6次産業化 ■観光と組み合わせた取り組みを行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・伐採作業見学などの森林に関する体験ツアー ・神宮備林の活用・整備 	

2-3 工業

発言内容	
産業部会	まちづくり部会
<ul style="list-style-type: none"> ・東京の代替としてBCP（事業継続計画）をキーワードに本社や研究施設の誘致を図る。 ・企業に対して効果的にPRするために、中津川を一言で形容するフレーズがあると良い。 ・東濃地域は地盤が強いことを示すことが産業誘致に有効。 ・企業誘致にあたっては、リニア開業時における当地のことを知っていただくために、道路や工業団地の状況、子どもの数などの絵を描いて示していくことが必要。 ・人的交流を深めていくことに注視すべきで、どのような企業が当地に興味を持っているかを把握する必要がある。 ・BCPを策定している企業が少ない中で、BCPを前面に出した企業誘致は難しくないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・稼ぐ産業として工業の振興も重要。
部会別討議にみる方向性	
<p>■地盤の良さや首都圏との近接性を活かした企業誘致を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部の企業がイメージできるリニア開業時の当地の姿を示す ・人的交流に着目して、製造業にこだわらず当地に興味を持つ企業・機能を把握 ・本社、研究・開発機能の誘致 	

2-4 商業・サービス業

発言内容	
産業部会	まちづくり部会
<ul style="list-style-type: none"> ・車両基地には世界最先端技術を有するので外国人の視察も見込めることから、その受け皿の準備が必要。 ・既存中心市街地が衰退してしまう懸念。 ・和菓子処の京都や金沢と連携して魅力度を高め、さらに独自性を打ち出す。 ・東濃地域は地盤が強いのでデータセンターの誘致が有効。 ・リニア駅に併設するお土産店は、お土産スポットとしての位置づけであり、まちなかにある商店は限定商品などで特徴を出せば存在感がでる。 ・地盤がよい利点と安さを活かして、データセンターを誘致していくとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地を大事にすべき。
部会別討議にみる方向性	
<ul style="list-style-type: none"> ■中津川市の独自性を活かして中心市街地の賑わいを高める。 <ul style="list-style-type: none"> ・まちなかの商店の商品に特徴をだし、リニア駅のお土産屋との棲み分けの明確化 ・和菓子処としての地域特性を活かす ■地盤の良さ、土地の安さを活かした産業誘致をおこなっていく。 <ul style="list-style-type: none"> ・データセンターの誘致 	

2-5 観光

発言内容	
産業部会	まちづくり部会
<ul style="list-style-type: none"> ・資源は個々にあるがルートが確立していないため、案内しづらい。 ・個々には質の高い木工業があるが組織的に動いていないため、今後の検討の余地がある。 ・ターゲットは関東地方で飛騨や木曾をつなげて広げていけばよい。 ・イベントができるまちづくりはどうか。若者をターゲットとした音楽フェスの誘致はどうか。 ・観光タクシーを展開していきたい。 ・中津川に立ち寄るように、中津川市外の観光名所も含めてルートを考えていきたい。 ・東京からみた中津川の認知度が十分でない。 ・歴史と食事などの資源は多数あるのでブランド化と十分なPRが必要。 ・外部の人から見れば魅力的なものがある。市民が周辺観光地を案内できるようになれば魅力的な観光地になると思う。 ・中津川に訪れる観光客が求めているものは自然である。地元の人しか知らないスポットを面的にPRしていく必要がある。 ・中津川市に象徴的なものをつくって、それを起点として周辺もPRしていくのがよい。 ・恵那山などの高原散策といった資源がある。 ・歩いて市内や自然を回れるまちづくりをしないと、玄関だけ街になってしまう。 ・馬籠というブランドのある観光資源を起点として、それを強化するかたちで周辺地域とタグを組んでPRしていけば観光全体としてよくなっていくのでは。 ・全国菓子大博覧会の誘致を図る。 ・単体ではなく、組織的に活動した観光への取り組みを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内を回遊出来るような仕掛けが必要。新たな開発ではなく、今あるものを磨き、足を運んでいただくことが重要。 ・四ツ目川沿いの桜の手入れや街並みをきれいにする取り組みも必要。 ・安定的な集客のためにはイベントとあわせて、毎日市内のどこかで何かしているような恒常的、長期的なものが必要。 ・川上には「夕森公園」があるが、将来は香嵐渓、高遠の桜のようになればいい。
部会別討議にみる方向性	
<p>■中津川市内の観光商品を磨き上げ、首都圏に対してPRし、中津川市の認知度を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境そのものを観光資源として活用 ・車両基地を観光資源として活用 ・中津川市の特徴を活かした全国菓子大博覧会など大規模なイベントの誘致 ・市民が周辺観光地を案内できるようにするなど、地元の人も参画した観光への取り組み ・単体個別で取り組むのではなく、地域一体となった組織的な活動の実施 <p>■中津川市内の今ある観光資源間を回遊できるような仕掛けづくりを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高原散策も含め歩いて市内や自然を回遊できるまちづくり <p>■飛騨や木曾などの周辺地域の観光資源を含めた観光商品を開発し、中津川市の観光魅力を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「馬籠」というブランドを活かした周辺地域と組んだPR <p>■安定的な集客に向けた恒常的・長期的なイベント等の実施に向けた検討。</p>	

2-6 地場産品

発言内容	
産業部会	まちづくり部会
<ul style="list-style-type: none"> ・中津川で生産されるお菓子などのブランド化を進める。 ・お土産として当地における定番を決め、広く認知させる。 ・キーワードを「日本一」として、栗きんとんなど中津川のブランドを高めていく。 ・京都のお菓子を誘致して、菓子処のイメージを固める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・工芸菓子の街として、工場見学から購買まで出来る施設があると集客につながる。 ・事業者が地域貢献するという意識醸成が必要である。地元事業者が一体となって意識を高めていくことが重要だ。
部会別討議にみる方向性	
<p>■中津川市にしかない商品やサービスを開発しブランド化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「日本一」をキーワードとした栗きんとんなど菓子処のイメージを高め、中津川のブランド力を高める。 ・事業者が一体となって地域貢献に向けた意識を高めて、ブランド力を強化する。 	

3. まちづくりに関する分野

3-1 自然環境

発言内容	
産業部会	まちづくり部会
<ul style="list-style-type: none"> ・中津川は自然が豊かであることをPRしていくことが重要。 ・各地域の環境を守っていく観点が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対処療法でなく意識的に残すべきものは残す。 ・中津川市及び坂本地区の自然を極力残す。 ・高さ制限など景観への配慮を。 ・全体景観とポイントポイント毎の景観に対応すべき。 ・各地域の地域委員会の意見を集約していくことが必要。 ・行政が示す基本的なルールと地域別のルールを定めて守っていくとよい。 ・市民では気がつかない日常の自然風景は外部の人に魅力的であることから、それらを保全しておくことが重要。 ・リニアができることによる景観との調和が課題となる。特に明かり部、工業団地、住宅の開発があった場合は配慮が必要。 ・里山は極力残すべきである。 ・自然環境（溪谷風景、紅葉等）そのものを観光資源として活用すべき。 ・付知峡は素晴らしい資源ではあり、東京から日帰り圏となることで期待できる。溪流もいい資源となる。 ・良好な自然景観を活用したウォーキング・ハイキングできる整備が必要。
部会別討議にみる方向性	
<p>■中津川市の豊かな自然を守る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・残すべきもの、守るべきものを明確にし、意識的に残す ・里山を含めた日常の自然風景の保全 ・景観、都市計画等によるルールを定め、中津川市の良い所を壊さない秩序あるまちづくりを実施 ・市全体の基本ルールと地域別のルールを定めて自然環境を守る <p>■自然を観光資源として活用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・溪谷風景、紅葉を活用 ・首都圏への付知峡などの溪流の売り出し ・ウォーキング・ハイキングできる整備 	

3-2 歴史文化

発言内容	
産業部会	まちづくり部会
<ul style="list-style-type: none"> 中山道と飛騨街道が交わる交通の要衝であったことをPRしていくべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 中山道を活用したおかげ横町のようなお菓子街をつくったらどうか。 歌舞伎、偉人、馬籠、お菓子といった地域資源の情報発信が有効。 月1回開催の六斎市を活用する。 島崎藤村、前田青邨、熊谷守一など文化人を活用した美術館の整備。 加子母の明治座クラシックコンサートを活用。 歴史的知名度を高めていかないと他の地域にはかなわない。 熊谷守一大賞展など全国的に広報しているものを観光的観点からPRしていくとよい。 明治座クラシックコンサートなど、地域で頑張っている人を行政が支援していくことが重要。 「おやじバンド」の活動など地域の活動を掘り起こせば地域振興に活用出来る資源はある。 木曽の宿場町の連携を強めていくべき。
部会別討議にみる方向性	
<p>■歴史文化（街道文化や文学）と観光を組み合わせ、情報発信やイベント実施などに取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> 中津川市ゆかりの文化人をPR 現在に残る街道文化を世界にPR 広域的な観光資源として、宿場町間の連携強化 <p>■地域で頑張っている人・団体を支援し、地域の資源を掘り起こす。</p> <ul style="list-style-type: none"> 明治座クラシックコンサート、「おやじバンド」などの地域活動の活用 	

3-3 人づくり・人育て

発言内容	
産業部会	まちづくり部会
<ul style="list-style-type: none"> ・地元の若い人に対して、5～10年かけてまちづくりに取り組む体制を整えていくことが重要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中津川市の教育レベルを高める。 ・医療関係の人が従事できる専門学校を誘致すべき。 ・大学、専門学校を誘致し、学園都市を目指したい。 ・中津川は有能な人材（技術者）を多く輩出しているが埋もれている。こうした知的財産を共有できる仕組みが必要。 ・中津川市の知能集団もビジョン策定委員会に入ってもらおうとよい。 ・リレー講演会、オープン講演会、市民大学講座など知的財産を活用した講演会を継続的に定期的に行っていくとよい。 ・若い人に聞かせる講演会を開催すべき。 ・教育レベルを上げるために、小中学校の学校環境の整備を進め、教育の一定の水準を確保することが必要。
部会別討議にみる方向性	
<p>■教育機関・研究機関の積極的な誘致を検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療関係の専門学校、理科系の大学など <p>■小中高の教育環境を向上させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い人に対して中津川の有能な人材を活かした講演会の実施 ・市内の知的財産を共有できる仕組みづくり（市民大学講座、学習） 	

3-4 住宅・住まい方

発言内容	
産業部会	まちづくり部会
<ul style="list-style-type: none"> ・二地域居住を促進する。 ・高齢者にやさしいまちづくり。 ・安心した街、自然を活かした体験型の街、便利な街をつくる。 ・社長室の誘致や役付者専用の住宅の受け皿を誘致することが考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・都会の人が住みたいと思う住まい方の検討（畑付き、庭付き）。 ・年齢層別に検討することが大事である。 ・住むときに必要なもの、足りないものの整理が必要。 ・住むためには収入を得なければいけない。産業のブランド化が重要。 ・リニア開業による若者流出を懸念。 ・リニア開業に伴い関連企業や研究機関の立地が期待されるが、単身赴任ではなく、家族とともに移住してもらうことが必要。 ・危機管理センターなどの誘致を行い、家族に住んでもらうことの検討も考えられる。 ・きれいな街にしていくため、そのために必要な規制が必要。現行の条例を見直すべき。 ・欧州のように、住民意識醸成と規制により街はきれいになると思う。
部会別討議にみる方向性	
<ul style="list-style-type: none"> ■都会の人が中津川市に住みたいと思う環境を整える。 <ul style="list-style-type: none"> ・単身赴任ではなく、家族が住んでいただける生活環境を整理 ■きれいな街を目指す。 <ul style="list-style-type: none"> ・現行の条例の見直し ・規制を設ける 	

3-5 安全・安心

発言内容	
産業部会	まちづくり部会
<ul style="list-style-type: none"> ・地盤がしっかりした地域で、国の機能のバックアップも検討出来るのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療専門学校の誘致。 ・高度な先進医療施設の誘致。 ・大都市の医者が通勤できるような体制づくりが必要。 ・子育て支援策。 ・子どもを産みやすい環境づくり。 ・医療、保育、共働きができる環境整備など、子育て世代への施策を手厚くしていくことが大切。 ・若い世代・子育て世代に光を当てるべきである。 ・地域の人それぞれが自ら関わっていくという気持ちがまちづくりの基本と成る。
部会別討議にみる方向性	
<ul style="list-style-type: none"> ■リニア開業までに様々な分野での安心安全対策に努め、定住促進に結び付ける。 <ul style="list-style-type: none"> ・医療、保育、など、若い世代、子育て世代に光をあてて取り組む ・施設の誘致やリニアを活用した医師等の確保による医療の充実。 ■地域の人が自ら関わっていく仕組みを構築する。 	

4. 産業とまちづくりを支える分野

基盤整備

発言内容	
産業部会	まちづくり部会
<ul style="list-style-type: none"> ・機能面から考えて思い切った提案が必要。 ・三河東美濃連絡道路の充実や飛騨奥美濃方面をつなぐ道路整備。 ・リニア駅をハブステーションに。公営の駐車場の早期の整備が必要。 ・道路網が交わるところに一般道からもアクセス可能なハイウェイオアシスを整備。 ・飛騨・富山、北陸新幹線が整備される富山などへつながる高速バスの拠点整備。 ・産業面へのメリットが考えられるリニア駅近くの高速度道路 IC の接続。 ・名古屋被災の際の経路として、三河ー中津川ー郡上の経路が有効。 ・交通網の整備が産業振興につながる。 ・国の事業の活用方策を模索するべき。 ・下呂方面へのバス路線があることなど一体的に PR していくための具体的なビジョンを示すべき。 ・高山や飛騨へ行きたいとのニーズはあると思うが、それに答えられる交通網の整備がないと、人が集まってこないと思う。 ・駅周辺の緑は当地の象徴として残していくべきである。 ・インフラの一種として光ファイバーについても触れるべきである。 ・トヨタ自動車のある三河地域へのアクセスも重要である。 ・リニアとあわせて道路整備されることで、朝取り野菜などへの物流面の効果が大きいと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体のバランスを見据えて整備すべき。 ・国道 19 号、257 号、中津川 IC のアクセスを。 ・市内の橋が斜めの箇所もある。対応を。 ・濃飛横断道や三河連絡道といった中津川市の南北方向の整備が必要。 ・木曾谷方面の道路・鉄道双方の移動利便性を高めるべき。 ・地元との調整が重要。 ・下呂市はリニアに大きな期待を寄せている。下呂の方々の声も聞きビジョンに繁栄していくとよい。 ・リニアができれば現在の東京と箱根の関係のように、下呂へのアクセスを充実すれば来訪者が増えると思う。 ・ビジネス客は名古屋や大阪に行ってしまうので、観光客を取り込むためのアクセスを考えるべきである。
部会別討議にみる方向性	
<ul style="list-style-type: none"> ■ リニア駅と幹線道路のアクセス利便性を高める。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 国道 19 号、国道 257 号、中津川 IC へのアクセス整備 ■ 下呂方面へのアクセス利便性を高める。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 観光客を取り込むためのアクセス整備（濃飛横断道路整備、バス路線 PR、下呂市との連携） ■ リニア駅周辺の自然は当地の象徴として位置づける。 	